

2011年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2010 を選出:SBでパナソニック/POは東レ

キャピタルアイ・ニュースは1日、キャピタル・アイ Awards“BEST DEALS OF 2010”と“BEST ISSUERS OF 2010”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2010年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

普通社債部門、証券化部門では、いずれも過去最大の発行額となったパナソニック債、住宅金融支援機構債が受賞。サムライ債の発行体ではラポバンクが発行額で大きな地位を占めている。新規公開株式部門と転換社債型新株予約権付社債部門でも、年度を代表する大型案件だった大塚ホールディングス、日本電産の案件が受賞している。既公開株式部門では東レが資金使途と規模、希薄化、パフォーマンスの観点で高評価を得た。

比較的小型の案件では、SB 特別賞の大成建設債がリーマンショック後初めてのゼネコンセクターからの登場として賞賛され、不動産投資信託証券部門の産業ファンド投資法人は明確なエクイティ・ストーリーで評価が高い。

年度終盤に東北関東大震災が起こったが、その後に価格形成機能を立て直した東京都の10年債は特別賞を受賞している。

以下が授賞リスト(<>内は主幹事、日付は条件決定日/決議日)。

普通社債部門

BEST DEALS OF 2010

第9回パナソニック債	3月3日	2年	1500億円
第10回パナソニック債	3月3日	5年	2000億円
第11回パナソニック債	3月3日	7年	1500億円

<野村/ゴールドマン・サックス/日興コーディアル/大和キャピタル・マーケット/みずほ/メルリリンチ日本>

事業会社のホールセール債として過去最大の発行額となる総額 5000 億円が円滑に消化。国内投資家の大多数が参加し、社債市場の活性化に貢献した。積極的なIRや適正なプライシングに努め、巨額の案件としてあるべき姿を示した。

BEST DEALS OF 2010 2 位

第51回日産自動車債	4月22日	5年	500億円
第52回日産自動車債	4月22日	7年	300億円
第53回日産自動車債	4月22日	10年	200億円

<日興コーディアル/ゴールドマン・サックス/みずほ/メルリリンチ日本>

社債市場の正常化を象徴する案件。リーマンショック後のシングルAマイナス(当時、R&I)の銘柄では最大となる総額 1000 億円の起債を成功させた。プライシング面でも大幅なタイトニングを実現した。

BEST DEALS OF 2010 3 位

第 4 回セブン&アイ・ホールディングス債	6 月 22 日	5 年	300 億円
〈野村／日興コーディアル／三菱UFJモルガン・スタンレー〉			
第 5 回セブン&アイ・ホールディングス債	6 月 22 日	7 年	200 億円
〈野村／日興コーディアル／三菱UFJモルガン・スタンレー／みずほ〉			
第 6 回セブン&アイ・ホールディングス債	6 月 22 日	10 年	600 億円
〈野村〉			

金利低下による売り物で起債環境が芳しくないなか、信用力や知名度の高さを生かして総額 1100 億円を発行。適正な水準でのプライシングによって幅広い投資家から需要を引き出すことに成功した。西武池袋本店を買い戻すための資金調達であり、起債目的が明確な点も好感された。

BEST DEAL OF 2010 3 位

第 75 回三菱商事債	7 月 23 日	10 年	350 億円
〈三菱UFJモルガン・スタンレー〉			

周囲に実勢と乖離した銘柄があったにも関わらず、市場との対話を重視する姿勢をブレずに貫き、まとまった額の起債を成功させた。投資家の声を踏まえた運営に定評のある発行体で、この案件も「真っ当なプライシング」と受け止められた。

特別賞

第 30 回大成建設債	6 月 16 日	5 年	150 億円
〈みずほ〉			

リーマンショック後初の大手ゼネコン銘柄。投資家の目線に沿ったプライシングを行い、このセクターの SB 発行を復活させた。IR に力を入れているほか、新たに格付けを取得するなど発行体の姿勢が評価され、増額発行に至った。

BEST ISSUER OF 2010

ソフトバンク

リテール債を含めて 3 回登場。発行総額は 2350 億円と、純粋なコーポレート物ではパナソニック(総額 5000 億円)に次ぐ規模となった。iPhone やユニークな CM が好調な業績を支え、トリプル B 格の大型案件にも関わらず大幅なタイトニングを実現。孫正義社長の“フォロワー”はツイッターのみならず社債市場にも存在し、投資家層は拡大している。2 月にはJCRからシングル A 格に格上げされた。

財投機関債等部門

BEST DEAL OF 2010

該当なし

BEST ISSUER OF 2010

住宅金融支援機構

投資家との対話を重視する信頼感の高い発行体として盤石の地位を維持している。2010 年度は発行予定額の大幅増に伴って、それまでの四半期ごとから四半期に 2 回の起債へ移行。発行額は 8 回で総額 4000 億円超に上ったが、市場実勢を踏まえたプライシングで毎回安定的に消化された。

地方債等部門

BEST DEAL OF 2010

平成 22 年度第 1 回福岡県債 11 月 12 日 15 年 200 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー／大和キャピタル・マーケット〉

市場公募地方債で初めての年限。投資家動向を事前にリサーチして起債の妥当性を検証したうえで臨み、運用年限の長期化による利回り上昇や年限の多様化ニーズに応えた。適切なプライシングによって超過需要を生み、当初の 100 億円から 200 億円に増額された。

特別賞

第 693 回東京都債 3 月 18 日 10 年 400 億円

〈幹事：みずほコーポレート銀行／野村／みずほ銀行／大和キャピタル・マーケット／日興コーディアル〉

大震災によって一旦見失われた一般債の価格形成機能を復活させた。この案件が発行条件を示したことで、ほかの銘柄でも水準感をつかむことが可能となった。混乱した市場にあって発行を見送る発行体もあるなか、機動的にスケジュールを変更し投資家動向を探ったうえで起債を実現させた。

BEST ISSUER OF 2010

東京都

ベンチマークとしての地位を自覚し、地方債市場の進化に貢献した。主幹事方式で地方債初の 7 年債を発行し、10 年債ではザラ場での条件決定に移行するという新たな試みも実施。大震災後には 10 年債の起債によって、一般債全体の価格形成を復活させた。

サムライ債部門

BEST DEAL OF 2010

第 9 回ルノー債 12 月 3 日 2 年 450 億円

〈BNPパリバ／みずほ〉

かつての常連が約 3 年ぶりに復活した案件。外格ではダブル B 格ながら当初の 300 億円から 450 億円に増額し、なお超過需要を創出して市場関係者を驚かせた。日本での知名度を生かしつつ投資家との丁寧な対話を重ね、まちまちだった目線を収斂させた。起債直前のJCRによるシングル A 格への格上げが需要の盛り上がりにも寄与した。

BEST ISSUER OF 2010

ラボバンク

数少ない“6A”ネームとしてサムライ債市場における代表的地位を確立。2 回にわたって合計 9 本・総額 1584 億円を起債し、一発行体として年度最大の調達額となった。サムライ債としては希少な 10 年債を入れることで、選択の幅を提供した。IR を定期的に実施するとともに、ホームページ上の日本語情報を充実させるなど、日本市場へのコミットメントが評価された。

証券化部門

BEST DEAL OF 2010

第 45 回住宅金融支援機構債	1 月 21 日	35 年	2760 億円
-----------------	----------	------	---------

〈三菱UFJモルガン・スタンレー／日興コーディアル／野村／みずほ〉

公庫時代を含めて過去最大の発行額。消化を危ぶむ声の一部で聞かれたが、従来以上に念を入れたマーケティングと適正なプライシングによって、投資家層を拡大して順調に販売された。機構の RMBS に対する良好なモメンタムが継続していることを示した。

外債部門

BEST DEALS OF 2010

三菱商事 ユーロドル債 9月8日 5年 5億ドル

〈シティグループ／JPモルガン〉

三菱商事 ユーロドル債 2月23日 5年 5億ドル

〈シティグループ／JPモルガン／モルガン・スタンレー〉

2 回に分けて外貨を調達するという戦略的な案件。9 月の起債では総合商社という特殊なビジネスへの理解を深めるために IR を実施したうえで臨み、発行額の 8 倍の需要を集め、セカンダリーでアウトパフォームさせた。2 月の起債では、リビア情勢で悪化した市場の回復のタイミングをいち早く捉え、機動的にローンチ。銘柄統合で 10 億ドルとし、流動性と価格透明性を高めた。前回債から 47bp タイミングさせるとともに、前回債の需要を取り込み、4 倍に相当する 20 億ドルの需要が寄せられた。

BEST ISSUER OF 2010

國際協力銀行

本邦政府保証外債を代表するネームとして3回起債。総額52億5000万ドルを発行し、流動性を供給し続けた。4月の案件は、金利低下で利回りを確保したい投資家の要望に応じて2年2ヵ月債とし、発行体として年度最大の22億5000万ドルが円滑に消化された。国際市場における存在感は年々増している。

新規公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2010

大塚ホールディングス 11 月 12 日 公募・売出：9000 万株 1890 億円
〈野村／モルガン・スタンレーMUFG／UBS〉

当年度を代表する大型案件。国内では抜群の知名度を持つが、主力薬品「エビリファイ」の特許切れを5年後に控え、6割を海外で販売する戦略で臨んだ。アフターマーケットの不調で評価は二分されたが、グローバル企業への脱皮に向けて海外投資家の厳しい目線を取り入れようとする前向きな経営姿勢を評価した。

BEST ISSUER OF 2010

該当なし

既公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2010

東レ 5 月 24 日 公募：2 億株 924 億円
〈野村〉

エクイティ・ファイナンスの要となる資金使途が成長戦略と合致。案件の規模や希薄化率も適切であるとの支持を集めた。増資後の株価推移は堅調で、既存株主および新規株主ともに満足度の高い案件となった。

BEST ISSUER OF 2010

該当なし

不動産投資信託証券部門

BEST DEAL OF 2010

産業ファンド投資法人 2 月 21 日 公募：1 万 4200 口 57 億 6441 万 9000 円
〈野村／日興コーディアル／三菱UFJモルガン・スタンレー〉

増資によって分配金が増加するという理想的な形で登場。ディールサイズは小さかったが、収益性の高い物件の取得によりポートフォリオの利回りやクオリティが向上。分配金水準の安定化を核としたエクイティ・ストーリーが評価された案件となった。

BEST ISSUER OF 2010

該当なし

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEAL OF 2010

日本電産 ユーロ円 CB

9月2日

5年

1000億円

〈三菱UFJインターナショナル〉

1000億円の大型案件ながら、投資家の強い支持を受けて仮条件を上方修正。需要が需要を呼び込み、1兆円を積み上げた。積極的なM&Aに裏打ちされた明確なエクイティ・ストーリーに発行体への絶大な信頼が加わり、他ディールを圧倒。投資家重視の姿勢も評価されている。

BEST ISSUER OF 2010

該当なし

■キャピタル・アイ Awards とは:

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債、外債(日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券(J-REIT)、転換社債型新株予約権付社債(CB)の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

代表者:代表取締役 高田 一子

所在地:東京都千代田区九段北 1-12-3 井門九段北ビル 4 階

設立:2006 年 7 月

資本金:8 千万円(2007 年 11 月 30 日現在)

主な事業の内容:金融市場に関するオンライン情報サービス

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場やCDS市場、CP市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ:<http://news.c-eye.ne.jp/info/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

広報担当:桜井由佳 03-6826-4710